







2



ダクワカ：「これはね、フィジーに昔から伝わる『カバの儀式』。  
村人はきみたちを歓迎しているんだよ」

【上演するにあたって】

A

台詞：「Bula（ブラ）！」  
村人たちがフィジー語で「こんにちは」とあいさ  
つをしてくれました。

さあみんなもいっしょに、あいさつしましょう。  
せーの、「ブラ」。

■②ページをゆっくりと全部引く

■大きい声で「ブラ」と言っ  
たあと耳に手をあてて、子  
どもたちにも「ブラ」と  
「ブラ」と言ってもらおう。









3

台詞..大喜びのみんなは今度は海へ探検に出かけました。

ウータ..「うわお、いろんな生き物がやってきたぞお。」

ブーラーアツ。きみはだあれ?」

ガニ..「ブラー。オレはここじやちよいと有名な

マングローブガニさ」

タック..「ねえ、海の上に森があるんだね。

あんな形の森、はじめて見るよ」

台詞..タックは海に根をはる森の姿に驚きました。

すると、森から大きな声がひびいたのです。

マングー..「ブラー、わたしはマングローブのマングーだ。

よくきてくれたね」

リノ..「わわわつ、マングローブは

オイラのふるさとのフィリピンにもあるよ!」

台詞..ウミガメノのリノは大はしゃぎです。

■一息間をおく

台詞..ダクワカがボートをこぐ手をとめました。

ダクワカ..「さあ着いた。これから海の中を案内するね」

台詞..まずはダクワカ、次にタック、その次にリノ、最後にウータが海の中にドボ、ドボン、ドッボン、ドッボーオンと飛び込みました。









タック..「うわあっ〜きれい〜!」



ウータ..「ホオーツ。こりやあすごい……」



台詞..動物たちはみんな驚いて声をあげました。  
みなさん、海の底に広がる色とりどりのもの、  
これがなんだかわかりますか？

台詞..そう、サンゴ礁です。



ダクワカ..「みんなにこのサンゴ礁のパラダイスを見せたかったんだ。ねえ、こつちにきてくれるかい」  
台詞..ダクワカはみんなをいったいどこに連れていくのでしょう。

■読みながら④ページをゆつくりと

A

まで引く



ダクワカ..「みんなにね、ぼくの幼なじみを紹介したいんだ。  
モネ、でておいでよ」

台詞..すると、大きなイソギンチャクのあいだから、  
とってもきれいな色をしたお魚が現れたのです。

■読みながら④ページを全部引く

【上演するにあたって】

■サンゴを指さして、子どもたちにたずねる。









モネ..「ブラー、わたしカクレクマノミのモネ。

どうぞよろしく」

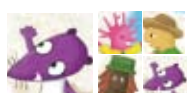
台詞..バレリーナのようにおじぎをしたモネにみんなは  
あいさつをしました。



みんな..「ブラー、モネ」

タック..「フィジーの海もサンゴ礁もとってもきれいだね」

台詞..ところが...タックの言葉を聞いたモネは、  
急に悲しそうな顔になったのです。



モネ..「本当はそうでもないの。みんなにね、

見て欲しいものがあるの。こっちへきて」

台詞..モネはそう言うと、みんなをある場所へと連れて  
いきました。



■一息間をおく

台詞..そしてそこには驚くような光景が広がっていたの  
です。

■さつと一気に⑤ページを引く









タツク..「あれえつ。なんて暗いの」

リノ..「水がすごく濁ってる。見えないよお」

台詞.. 暗く濁った海の中をしつかり見ようと、みんなは目をこらしました。目がなれてくると、海の底に白っぽい骨のような固まりが一面に広がっているのが見えました。

モネ..「これはね……さつきと同じサンゴさんたちよ」

台詞.. モネは涙を浮かべています。

タツク..「ええつ、これがサンゴ？ 信じられない。どうしてこんなに白くて汚れているの？」

台詞.. タツクの問いに答えたのは、今にも泣きそうなダクワカでした。

ダクワカ..「サンゴたちは、死んだから白くなってしまったんだ」

タツク..「なぜサンゴは死んでしまったの？ ダクワカ」

ダクワカ..「うん。理由のひとつはね、海辺のマングローブが切られたせいで、山の土砂が海に流れ込んで太陽の光をさえぎったから、サンゴたちが死んでしまったんだ」

リノ..「どうしてマングローブたちは切られてしまったんだい？」

台詞.. 今度はリノが尋ねました。

ダクワカ..「それはね、世界中からたくさんの人たちがフィジーの海に遊びに来るようになったからホテルを建てたり道やビーチをつくったりするために、マングローブが切られてしまったんだ」









モネ..「マングローブはね、山から流されてくる土砂をその根っこで受け止めて、海に入り込まないようにしてくれるのよ。そしてその根っこにはたくさんの生き物たちが住んでいるの」

台詞..モネは、死んだサンゴ礁が横たわる海の底から、今度はみんなを海辺のほうへと案内していききました。海辺ではマングローブが海底にまでしっかりと根をはっています。

台詞..そうなのです。マングローブの森は海の生き物たちになくてはならないものなのです。



タック..「ところで、どうしてたくさんの土砂が陸から海に流れてくるんだろう?」

台詞..タックたちの問いの答えを捜しに、みんなは海辺から陸にあがってきました。川をさかのぼっていくと、ついに小高い山の上にやってきました。

台詞..山に生えていたのはマツの木です。おや、雨が降り始めたら、生物学者のウータ博士がどうして土が海に流れてしまうか、気がついたようです。みなさんは、わかりましたか?









ウータ…「みんな、わかったよお。土の中と松の根の様子を考えてごらん。雨水が木の根を伝って土の中にしみ込んでいるんだ。これが地下水になるんだよ。ここまでわかるかな？」

■読みながら子どもたちを見まわす

ウータ…「では、もしここに松の木がなかったらどうなるだろう？ 雨水は土の中にしみ込まないで土の上を流れてしまう。そうすると山の土砂も海辺に流れてしまうんだ」

台詞…ウータ博士のここまでの説明、わかりましたか？

台詞…山に木がないと土砂が流れてしまつて、そして海辺のマングローブがないと、土砂が海の中にそのまま流れ込んでしまい、サンゴや海の生き物たちが死んでしまうのです。

台詞…では、どうしたらサンゴたちを守れるのでしょうか。動物たちはみんな暗い顔になってしまいました。

ダクワカ…「実はね、みんなの力を貸してほしいことがあるんだ」

台詞…ダクワカが力強い目でみんなに呼びかけました。

■読みながら⑧ページをゆつくり全部引く









タック..「わあ、木を植えてる。マングローブの植林だあ」

台詞.. そうなのです。この日は、フィジーの動物たちが  
山に、そして海に木を植えていたのです。

タック..「ぼくも苗を植えるよ」

台詞.. 穴を掘りはじめたタック。その隣でリノが苗をさ  
さえました。

リノ..「オイラも手伝うよ」

台詞.. タックもリノもウータも泥につかりながら、たく  
さんのマングローブの苗を植えました。ダクワカ  
は大喜びです。

ダクワカ..「ありがとう！

みんなが植えた苗たちは将来マングローブの森に  
なってぼくらの海を守ってくれるよ。」

台詞.. ウータが大きくなすきました。

■読みながら遠くの森がなくなってしまった山の松の苗を指さす

ウータ..「この海辺に大きなマングローブの森ができるころ  
にはね、あの山に植えている松の苗も大きくなっ  
てりっぱな森になっているよ」









台詞.. そうです。みんなが山に植えている松の苗、海辺に植えているマングローブの苗、この苗たちが大きく育った時、山では松の木の根が雨水を貯めて洪水を防ぎ、海辺ではマングローブの根が土を食い止め、海の生き物を守るのです。

【上演するにあたって】

台詞.. モネが背ビレを大きくゆらしました。

モネ.. 「そうしたら、サンゴ礁がたくさん育ってわたしたちのすみかが戻ってくるのね」



ちのすみかが戻ってくるのね」

ダクワカ.. 「一日も早くそんな日がきてほしいなあ。



みんな、苗を植えてくれてありがとう！

Vinaka (ヴィナカー)」

台詞.. ダクワカがフィジー語で「ありがとう！」とお礼をいうと、モネも大きな声で続けました。

モネ.. 「Vinaka (ヴィナカー)」



台詞.. ダクワカとモネが喜んでくれて、タツクもウータもリノもうれしくなりました。すると、マングーの大きな声が響き渡ったのです。

■ Vinaka ヴィナカを  
力強く読む。









11



マングー：「Vī、 naー、 kaー。（ヴィナカー）

みんなでマングローブの苗を植えてくれてありがとう！ ぼくの兄妹たちがたくさん増えればマングローブたちが力をあわせてフィジーの海を守れるんだ。昔のような美しいサンゴ礁の広がる海が戻ってくるよ」



ダクワカ：「頼りにしてるよ、 マングー」

台詞…みんなはマングーの太くて力強い手をしっかりと握りしめました。将来、大きく育ったマングローブたちがフィジーの海を守っていくことでしょう。美しく元気なサンゴ礁が育ち、そこでは海の生き物たちが平和に暮らしていただけるのです。









12

♣オイスカと「子供の森」計画

「子供の森」計画はオイスカが世界各地で推進している子どもたちの植林活動及び環境教育の支援プログラムです。1991 年より開始し、現在までに 33 の国と地域の 4,600 以上の学校が参加しています。オイスカは、国連経済社会理事会の諮問資格を持つ国際協力 NGO で、1961 年の設立以来、アジア太平洋地域の開発途上国を中心として農林業開発協力、環境保全活動、人材育成を推進しています。  
<http://www.oisca.org>

♣動物かんきょう会議とは

世界のさまざまな地域から集まった動物たちが、身近な「かんきょう問題」をテーマに会議をくりひろげるお話です。子どもたちが「環境問題と異文化に興味をもち、自ら考え、行動する人間になってほしい」との願いをこめて 1997 年にはじまったプロジェクトです。2012 年には世界の 12 才同士が学び合う「せかい・動物かんきょう会議」がスタート。絵本とアニメーション（NHK 教育 TV で放映）があります。  
<http://animalconference.com>



タック..「あれっ そろそろ出発の時間だよ」

台詞.. タックの声にみんなはわれにかえりました。



リノ..「オイラたち、次の国へいかなくちや」

台詞.. リノの声は少し寂しそうです。



ウータ..「ぼく、マングローブが大きくなるころ、またフィジーにくるよ。モネ、約束するよ」

台詞.. ウータがモネに約束しました。



ダクワカ..「さあ、みんな、この船に乗ってくれ」



ダクワカ..「みんな、用意はいいかい？ さあ、出発だ！」

台詞.. ダクワカにうながされ、みんなはタキアという帆船に乗りこみました。

みんな..「MOCE（モゼー）、さようなら、フィジー」

台詞.. みなさんもうっしょに

Moce（モゼー）、さようなら フィジー。

■大きい声で「モゼー」と言ったあと耳に手をあてて、子どもたちにもいっしょに「モゼー」と言ってもうっしょ。

台詞.. おしまい

世界の森のおはなしシリーズ  
「フィジーの森のおはなし」

2014 年 3 月 発行（第 1 版） 12 場面

脚本 筒井公子  
絵 宮知和代とマリルウ  
企画・監修 公益財団法人オイスカ 「子供の森」計画  
有限会社グレイスアカデミー  
協力 フィジーの子どもたち  
キャラクター ダクワカ／リノ ©OISCA/NURUE  
タック／ウータ／モネ ©NURUE  
制作協力 「動物かんきょう会議」プロジェクト  
© 株式会社ヌールエ デザイン総合研究所

発行 公益財団法人オイスカ  
〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5  
TEL：03-3322-5161（代表）  
<http://www.oisca.org/>



*Heave*







# フィジーの 森のおはなし

作 公益財団法人オイスカ

1

ダクワカ…「わあーっ お日さまがのぼってきた！

きれいだなあ。OLE（オイレー）」

ダクワカ…「ぼくサンゴのダクワカ！ 今日ぼくの友だちが、はるばる、日本、フィリピン、インドネシアからフィジーにやってくるんだ。おだやかでとってもいい日になりますように！」

台詞…その日の午後です。ダクワカに案内されて、日本のタヌキのタツク、フィリピンのウミガメのリノ、インドネシアのオラウータンのウータが浜辺にやってきました。

■読みながら①ページをゆっくりと全部引く

A

まで引く

タツク…「うわあっ なんて青い海！」

台詞…タヌキのタツクが歓声をあげました

リノ…「砂浜が真っ白だっ！」

■読みながら①ページをゆっくりと全部引く

台詞…ウミガメのリノは砂浜の白さに驚きました！

ウータ…「ねえ、ダクワカ、あそこにいるみんなはいつたい何をしているの？」

台詞…オラウータンのウータがたずねました。

【上演するにあたって】  
キャラクターの性格と口調

ダクワカ（男）

フィジーのサンゴの青年。  
はつきりゆったりとした口調で。

タツク（男）

日本のタヌキの青年。まじめでなんでも一生懸命。少し高めの声で元気にテンポよく。

リノ（男）

フィリピンのウミガメの少年。歌うように軽やかに。

ウータ（男）

インドネシアのオランウータンの中年男性。のんびりと少し間のびしたような太い声で。

モネ（少女）

フィジーのカクレクマノミの少女。かわいらしくささやくような声で。

マンゲー（男）

フィジーのマングローブパパ。落ち着いた力強い口調で。

マングローブガニ（男）

フィジーの海のおじさん。威勢のいいしわがれ声で。